



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)木内建設(株)本社建替プロジェクト	BEE	2	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 <sup>*</sup> /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.7	/5	ふつつ			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.8	/5	ふつつ			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4	/5	ふつつ			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.4	/5	ふつつ			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.7
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①良好な日射遮蔽性能、断熱性能を有する。 ②電動ブラインドにより制御が可能。 ④補修必要間隔の長い配管材を採用している。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPI <sub>m</sub> =0.78とし、良好な日射遮蔽性能、断熱性能を有する。 ⑨LED照明、高効率空調機を導入している。 ⑩BEMSの導入によりエネルギー管理をしている。 ⑩運用、維持、保全の基本方針を計画し責任者を指名、目標値を計画し建築主へ提出している。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪自動水栓に加えて、節水型便器を採用している。 ⑫外壁、床、天井にリサイクル材を採用している。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を83%としている。		Q-1 2 2.1 2.1.2 Q-1 3 3.1 3.1.3 3.2 3.2.1 Q-2 2 2.2 2.2.1 2.2.2 2.2.3 2.2.4 2.2.5 2.2.6 Q-3 1 3 3.2 LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2 LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.1.1 2.1.2 2.1.3 2.1.4 2.1.5 2.1.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3 LR-3 1 2 2.2	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯基礎免震構造を採用している。 ⑰重要度に応じてシステムを区分、災害時には重要度の高いシステムを優先的に運転するよう計画している。 ⑰非常用発電を設置、受電設備の二重化、精密機械を地下空間に設置していない。 ⑰耐震クラスとしている。 ⑰通信の多様化、精密機械を地下空間に設置していない、災害時の有線電話等設置、無停電装置を設置している。		Q-2 2 2.1 2.1.1 2.1.2 2.4 2.4.1 2.4.2 2.4.3 2.4.4 2.4.5	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲各階階高を3.9m以上としている。 ⑲壁長さ比率を0.1以上0.3未満としている。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑視線を遮らない様な樹木の配置、防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。		Q-2 1 1.1 1.1.3 3 3.1 3.1.1 3.1.2 Q-3 3 3.1	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑱ 階高のゆとり ⑱ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ㉒屋上自隠し壁により周囲からの見え方に配慮、植栽による良好な景観を形成、既存樹木を移植している。 ■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善)		Q-3 1 2 3 3.2 LR-3 2 2.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑮ 温熱環境悪化の改善

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	(仮称)木内建設(株)本社建替プロジェクト	階数	地上6F
建設地	静岡県静岡市	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条区域	平均居住人員	190人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,450時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年6月 予定	評価の実施日	2019年7月18日
敷地面積	(仮想)5100㎡	作成者	木内建設株式会社
建築面積	1,345㎡	確認日	2019年7月18日
延床面積	6,908㎡	確認者	木内建設株式会社



**2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)**

**BEE = 2.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

**2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)**

標準計算

30%☆☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆☆ 100%☆☆☆☆☆ 100%超☆☆☆☆☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

100% 83% 83% 83%

0 46 92 138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

**2-3 大項目の評価(レーダーチャート)**

**2-4 中項目の評価(バーチャート)**

**Q 環境品質** **Q のスコア = 3.8**

**Q1 室内環境** **Q1のスコア = 3.8**

**Q2 サービス性能** **Q2のスコア = 3.8**

**Q3 室外環境(敷地内)** **Q3のスコア = 3.8**

**LR 環境負荷低減性** **LR のスコア = 3.6**

**LR1 エネルギー** **LR1のスコア = 3.8**

**LR2 資源・マテリアル** **LR2のスコア = 3.5**

**LR3 敷地外環境** **LR3のスコア = 3.5**

<b>3 設計上の配慮事項</b>		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。周辺の採光・通風・日影に配慮した配置計画とし、また道路側の緑地や庭園を設けることで景色(緑)を提供している。空調室外機等の機械類は屋上に集約し、景観、周囲への騒音軽減に配慮している。		省エネ効果・室内環境の確認の為、BEMS機能を有した中央監視装置を取り入れ消費エネルギー量を把握し、効率的運用に配慮している。
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
屋光率を高めに設定し、電動ブラインドや庇を採用するなど光・視環境に配慮している。また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、空気質環境にも十分配慮している。	天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。電気設備については非常用発電機を採用、情報通信設備については通信設備の多様化、無停電電源設備を採用、また、補修必要間隔の長い配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。	敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。視線を遮らない様な樹木の配置、防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
空調機・モジュールチラーは高効率機器を採用、外気処理空調機は全熱交換器付とする事で設備システムの高効率化に配慮している。快適性と省エネ性を両立し、LED照明器具の集中制御や各種センサ・タイマーと連動した点灯制御など、無駄を抑えた照明環境を実現している。	自動水栓や、擬音装置などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。また、OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を83%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される